

令和4年度 第5回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 令和5年3月15日(水) 19:00~21:00

◆開催場所 東近江市役所 313 会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾 昌峰、辻 薫、小嶋 一浩、園田 由未子、綾 康典
小島 秋彦、富田 由美子、藤澤 彰祐、藤 一道、奥田 新悟
若林 理恵、笠原 健司

(欠席:水谷 友彦、小島 淳司、朝比奈 遥)

まちづくり協働課 中江、岡崎、西川、松居(事務局)

◆議題

- (1)「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞の振り返りについて
- (2) 市民協働推進計画の見直しに向けて

<中江管理監>

今年度は一年間お世話になりました。また、わくわくこらぼ村に出席いただきました委員の皆さま、ありがとうございました。

それでは、進行を深尾委員長にお願いいたします。

<深尾委員長>

本日もよろしくお願ひいたします。今週からマスクの着用が任意となりましたが、さあ外しましよとするのはなかなか難しいものです。

本日は2点、議題があります。1つ目は、「わがまち協働大賞」について振り返りを行いたいと思います。2つ目は、市民協働推進計画の見直しについて、前回までのまとめを行いたいと思います。

では、1つ目の「わがまち協働大賞」について、事務局から説明をお願いいたします。

【議題】

- (1)「共に考え、創る」わがまち協働大賞の振り返りについて【資料1】

<事務局>

今年度のわがまち協働大賞について、資料をもとに、当日の開催状況含め、報告を行う。

<深尾委員長>

報告ありがとうございました。来年度に向けて、変えた方がいいところなどあれば、意見をお願いします。

<委員>

当日の段取りについてだが、中学生の出るタイミングを考えた方が良いと思う。当日、進行が止まってしまったが、ああいった場面でぱっと動けるディレクターの役割を一人用意した方が良いのでは。どんなイベントでも、ディレクターを置いて進行に支障がないようにしている。

<委員>

当日の表彰について、映像でどんな事業かを伝える時間があつた方が良いと感じた。

<委員>

私は司会をしていたが、自分がヒアリングをして内容を知っていた事業は、「こんな事業をされていますよ。」というアドリブを入れたら、後でムラヤマ監督にお礼を言われた。その事業を知る時間は、確かに大事だと思う。

<委員>

市民投票が、いいなと思うところに公平にできるようになれば良いと思った。また、事例の「協働しているところの良さ」がもっと打ち出せるように出来ないか。

<委員>

私は、以前、一人3票くらい投票できるようになれば良いと提案した。1票だけだとしても自分の地元などに投票しがちになる。

<委員>

インターネットからは何票も投票できるようになっている。投票した場合は、こちらからいつに投票したが時間が分かるので、明らかに複数票である投票も分かってしまった。

<委員長>

IPかメールアドレスで、投票に制限をかけられると良い。

<委員>

可能かどうかは分からないが、東近江ケーブルネットワークで特集番組など組んでもらえれば、大賞についてもっと知ってもらうことができるのでは。

<委員長>

団体について、取材するのも良いのでは。そういった工夫もできればと思う。

<委員>

協賛の増やし方について、自分の地元の団体がノミネート決まってからでも、もっと協賛を増やすことはできるのではないかと思った。自分の知っている団体がノミネートしていることで、応援の意味で協賛する事業者もいるのではないかと思う。

<委員>

私は以前、団体として受賞したことがあったが、副賞としてもらった協賛品で、個人で楽しむものもあって困ったことがある。その時は政所茶をいただいたが、なかなか使いきれなかった。

<委員長>

どういう物をどういう風にあげるかも丁寧に見ても良いかもしれない。

<事務局>

商工会や商工会議所に声かけしてもよいのでは。

<委員>

エピソード賞は、ヒアリングが終わった直後に早期でできれば、委員会でエピソードを話し合えるのではと感じた。今年度初めて委員になったので、後でエピソード賞の選出があると知らず、いざ最終選考の段階になってもすぐ思い出せなかった。

<委員長>

エピソードについては、ヒアリングシートに書いておくのもよいかもしれない。

(2) 市民協働推進計画の見直しに向けて【資料2】

<委員長>

市民協働推進計画については、9月を目途に素案として進めていく予定である。今日は、そのチューンナップに対する準備運動のつもりで、話し合いを進めていきたい。

<事務局>

これまでのグループワークについて、資料にもとづき振り返りを行う。

<深尾委員長>

この行政計画は、特殊だと思っている。主に三つの視点があり、一つ目に市民参画、二つ目に民が主導しながら行政と一緒にやっていく、三つ目に民と民（自発的なゾーン）、こちらについては商工的な物も含める。協働の仕組みについては、行政がかめないものもあり、

賛否両論である。例えば、行政からは「学校に行きなさい！」という立場であるが、一方では「集いの場を作ろうよ。」という声があがることもある。この場合、行政は直接応援できないが仕組み作りはできる。また、ラウンドテーブルをもっと位置づけよう、などレベルが出てくる。行政や市民の視点について、整理する必要がある。まずは大枠について話し合う必要があり、個別の施策については4月以降に話し合う。

<委員>

我々はそもそも、行政側として意見を述べればよいのか。

<委員長>

一時的には、そうである。まち全体を考えた時に、政策はどのようなものが必要か、話し合いを行う。ただ、民も含むゾーンも考える。責任主体は行政となる。

<委員>

「行政でできない部分を市民として発言する」という、市民の立場か。

<委員長>

そうである。二つの視点はそれぞれつながっている。また、今日は委員から話題提供がある。説明をお願いしたい。

<委員>

本日の話題提供について。今年度、グループワークで話し合いを行ったが、特に施策⑤の話し合いになった時、自分があまりにも現状を知らなすぎること気づいた。後日意見のまとめを市から送付してもらったが、そもそも追加の意見も何を言ったらいいかわからない状態。ただ、皆さんの意見のまとめを見ていると、細かく触れられているところがあれば、あまり触れられていない分野もあった。

今回準備した資料であるが、総合計画との整合性についてまとめている。市民協働推進計画は、単独ではなく、他計画との組み合わせで成り立つものである。また、計画期間が10年となっているが、計画年数の根拠が見当たらない。10年である必要は、無いのかなと思う。

<事務局>

計画期間は、条例でも決まっていない。

<委員長>

個別の計画とリンクするのは少し難しいと思っている。位置づけとしては間違っていない

いし、共通認識を持つこともできた。計画期間については、皆さんで話し合いました。

<事務局>

子ども・子育て支援事業計画などについては、数値的な見直しがあるため数字を5年ごとに出しているのではないかと思う。

<委員長>

ラウンドテーブルについては、早期に見直せたかもしれない。政策形成プロセスとして、数字以外にも見直せるかもしれない。ただ、「あえて」長い期間の計画を作るのもありである。龍谷大学では20年スパンで計画を立てた。「こうなりたい」という意見は出るが、直近でどうしていこうということになると、途端に抵抗勢力になることもある。

<委員>

この計画の見直しが、東近江市全体に影響を与えると考えて進めていく必要があると思う。東近江市のとある委員会では、学童から選出されているということで委員の公募はされていなかった。委員会の傍聴はできるが、発言は出来ないため聞くだけになってしまう。私が以前住んでいた市では委員が公募されていたのだが・・・

<委員長>

子ども分野に限定せず、市全体の委員会に対して「協働」として見た場合を計画に盛り込むべきである。

<事務局>

計画の中には、意識改革に関するものもあり、計画の中に盛り込むのは難しいのではないかとと思われる部分もある。

<委員長>

意識づけの部分も、是非盛り込むべきである。

<委員>

「地域」の単位はコミセン単位で考えた方がよいのか。行政の考える地域は14地区か。中学校単位だと9地区になるし、小学校単位だと22地区になる。行政でも、それぞれの課で「地域」の捉え方が違う。

<委員長>

地域という言葉を、我々も便利に使ってしまうことがある。余地を持たせた方がよい時も

ある。

<委員>

地域活動をしていると、中学校区で考えた方が良い時もある。

<委員長>

発信力の術として今後考える必要がある。官と民、民と民などバランスよく考えていきたい。

<委員>

意見のまとめを見ていて気付いたが、ファシリテーションする人を育てるという項目が抜けていたので忘れないうちに情報共有しておきたい。この市民協働推進委員会でも、委員長が軌道修正をしてまとめてくださっていることで、スムーズに進んでいる。この前こども園で卒業アルバム作りをしていたが、なかなかまとまらないことがあった。話し合う場があってもファシリテーターがいないと混乱することが増えてしまう。

<委員>

私も同意見で、「多様性を認める」ということがどういうことかを考えた時、聞く力、対話力が大事だと思った。ファシリテーター講座など、行政が仕掛けられる講座ができれば良いと思う。

<委員長>

ファシリテーション講座で一番オファーが多かったのは、実はPTAであった。また、先生向けの講座も行ってた。先生は、「多数決で決めましょう」となることが多いので、講座を聞いて目から鱗だという意見をいただいた。

話し合いの場を設けることは大事である。地域担当職員にも、当初ファシリテーターの役割を期待していたが、立場的に独立性が保てないということが分かったため、少し難しいと感じている。このことについてもどこかで皆さんと考えたいと思う。計画については、やりたいことだけではなく、何を削るかも考える必要がある。

最後に委員の皆さんから何かコメントしておきたいことはあるか。→意見なし

<事務局>

- ・次回令和5年度第1回市民協働推進委員会：4月26日（水）午後7時から
- ・令和5年度第2回市民協働推進委員会：5月26日（金）午後7時から

午後9時会議終了